



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



平成20年度卒業式挙行される

歯学部長 宮崎 隆

去る3月19日(木)に五反田の「ゆうぽうとホール」において、平成20年度昭和大学卒業式が執り行われました。当日の東京は春



の陽気の好天気にも恵まれ、会場は着飾った卒業生と大勢の保護者で華やかな雰囲気に包まれました。

式は10時に昭和大学管弦楽団によるモーツァルトのアイネクライネナハトムジークの演奏で厳かな雰囲気の中に開会しました。各学部の総代に細山田学長から学位記が授与され、小野岳人君が歯学部卒業生95名を代表しました。引き続き学長から「昭和大学において最高の教育を受けたことを誇りに持って各分野の医療人として患者の健康のために奉仕し、社会還元するようにと」告辞がありました。小口理事長からは「学生時代に学習して成長して今日の卒業を迎えたが、これからはさらに進歩しなくてはならない。その原動力になるのが昭和大学の卒業生という誇りである」と祝辞がありました。

各種表彰に移り、歯学部関係では、上條賞を小野岳人君、同窓会賞を澤田紘美さん、清川麻里絵さん、森田麻友さん、そして上條旗ヶ岡賞をスキー部の芝多佳彦君が受賞しました。四ノ宮父兄会長から記念品贈呈があり、卒業生謝辞のあと、グリーンクラブのリードで校歌を斉唱しました。最後に応援指導部による卒業生へのエールがあり、会場内が一気に盛り上がったところで11時半に閉会しました。

引き続き各学部に分かれて歯学部は旗の台校舎4号館500号室において、午後12時半から学位記授与式が執り行われました。卒業生全員に宮崎歯学部長から学位記が授与され、引き続き学生表彰、記念品贈呈および花束贈呈を行い午後1時半に閉会しました。学生表彰者は以下の通りです。歯科医学生賞: 後藤聡子, 及川真由美, 藤田康平, デンツプライ賞: 関根春香, 藤田悠子, ウィップミックス賞: 松村麻里(敬称略) 卒業生代表の堀大樹君から大学に記念品としてノートパソコンが贈呈されました。卒業生の前途を祝し、今後の活躍を祈念します。

教授就任挨拶

美容歯科診療科長 真鍋厚史

この度、2月10日付けで教授(員外)に昇任しました。私は昭和58年に本大学歯学部を第一期生として卒業し、直ちに医学部第一薬理学教室の大学院に入学しました。大学院修了と同時に現在の齶蝕・歯内治療学講座に入局し、和久本貞雄教授(現名誉教授)と久光久教授のご指導の下で、診療、教育、研究に励んでまいりました。平成16年6月新診療科として美容歯科が開設されると同時に、診療科長として患者口腔内の健康美増進とメンテナンスを基本方針として診療に従事しております。当診療科に来院される患者さんには、すでに複数の審美歯科の受診経験があり、その治療内容に満足されていない方も数多くいらっしゃいます。これは、たとえ質のよい修復処置やホワイトニングを行っても、患者さんと担当医の信頼関係がなければ、患者さんは治療に満足されないためであろうと考えます。そこで、本診療科は、診療前、術中、術後のインフォームドコンセントを常に十分行い、患者さんとの信頼関係を確立することを第一と考えております。



実際の診療につきましては、患者さんの年齢、性別、習癖などを考慮して、ホワイトニングやセラミック修復、また歯周疾患治療を行って、健康的な美しさの追求を行っております。特に矮小歯や正中離開歯などに、非切削のコンタクトラミネートベニヤ法などを積極的に取り入れております。一方、治療によって得られた健康美をいつまでも保つことは、治療以上に重要です。当診療科では、治療後のメンテナンスも徹底して行っております。

日本の保険医療制度は、国の医療費抑制政策により非常に厳しい状態にあります。大学病院においては、保険制度の必要性、仕組みなどを十分理解し、適切な保険請求を行う必要があります。自由診療の多い美容歯科では、保険治療との混合診療にならぬよう、より一層の配慮が必要であると思っております。

以上のように、美容歯科診療科は、患者さんとの良い信頼関係を築いてお口の健康美の実現を目指すとともに、次代を担う若い歯科医師、研修医や学生

の指導を行っていく所存です。若輩者ではございますが今後も先生方のご指導、ご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

入試結果(選抜Ⅱ期)報告

入試常任委員 井上 富雄

選抜Ⅱ期入試が昨年より2週間早い3月1日(日)に実施されました。当日は曇りで3月にしては肌寒い陽気でしたが、交通等の乱れはありませんでした。8名の募集に対して60名(7.5倍)の志願者があり、昨年よりも志願者が減少しましたが、当日の欠席者はわずか8名で少数精鋭の入試となりました。合格発表は3月3日に行われ、14名(男子7名、女子7名)が合格しました。以上をもちまして、平成21年度入試が無事終了しました。ご協力いただいた職員の皆様、誠にありがとうございました。

試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
推薦	23名	H20.10.27～11.5	H20.11.9(日)	H20.11.11(火)
編入	若干名	H20.10.27～11.5	H20.11.9(日)	H20.11.11(火)
センター	約10名	H.20.12.24～H.21.1.23	H21. 1.17(土), 18(日), H21. 1.30(金)	H20. 2. 5(木)
選抜Ⅰ期	55名	H20.12.24～H21.1.23	H21. 1.30(金)	H21. 2. 3(火)
選抜Ⅱ期	約8名	H21.2. 9～H21.2.24	H21. 3. 1(日)	H21. 3. 3(火)

教室紹介

口腔微生物学教室 五十嵐 武

感染症は過去、現在を問わず依然猛威を振るい、また、将来においても我々を悩まし続けると推測されます。これは医療が急速に進歩した現代社会においてもなお、世界の年間総死亡者数の約25%(1,500万人)が感染症によるものであり、依然減る様相を呈していないことから裏付けられます。そのため医療従事者は生半可な知識に基づく安易な現状認識では、この感染症に立ち向かうことができません。

このような現状のもと、私たち口腔微生物学教室では、歯学部学生が将来臨床の場で遭遇することが予想される感染症に対して、確かな知識を習得できるように、講義・実習を行っています。実際には、2年生の「う蝕の基礎」、「歯周病の基礎」と3年生の「感染と免疫」を担当し、口腔内はもとより全身感染症と生体免疫についても理解を深め、全身の健康に寄与することのできる歯科医師の育成を目標としています。

研究面では口腔病原細菌の感染と宿主免疫応答(特に自然免疫)に焦点を当て、分子生物学的・免疫学的手法を駆使して、6名の教員と7名の大学院生が精力的にそれぞれの研究に従事し、日本細菌学会

やアメリカ微生物学会など、国内外の多くの学会でその成果を発表しています。また、歯学部内の基礎・臨床教室および薬学部・保健医療学部との共同研究ならびに、他大学や企業との連携により、幅広い研究に着手しています。

当教室は鷹森教授(初代)、後藤教授(2代目)に次いで現在、3代目教授として五十嵐が教室を主宰しています。年々多様化する歯学教育・研究に対応すべく、バイタリティー溢れる若い教室員・大学院生と共に教室運営に当たっております。



D4共用試験OSCE実施報告

OSCE委員会 委員長 菅沼岳史

2月22日(日)に歯学部第4学年を対象とする共用試験OSCEが歯科病院において、204名のスタッフ(教員137名、職員7名、SP42名、学外評価者18名)で実施され、91名の受験生が6つの課題(面接系1、説明系1、技能系4)を受験しました。今回は、初めての日曜日実施であり、前日の土曜日に事前説明とテストランを行いました。これは他大学に歩調を合わせたことと、評価の十分なすり合わせと運営面における問題点を解決するためです。機構モニターの先生方からは、運営面に関しては昨年度指摘された事項が改善され、前日のテストランの際にあがった問題点も解決されていたと評価を頂きましたが、一部のステーション反省会において、内部評価者への事前打ち合わせが不十分であったとのご意見を頂きましたので、次年度に向けて検討したいと思います。週末の貴重な時間を多くの教職員の方々にご協力を頂きありがとうございました。

D5皆勤賞表彰

教育委員長 佐藤裕二

3月31日で1年間にわたる臨床実習が終わりました。インフルエンザの流行や臨床実習のプレッシャーにも負けず、4名の学生(写真左から、峯村くん、吉澤さん、矢島さん、中山さん)が臨床実習及び臨床科学の講義を無欠席でした。彼らのがんばりと熱意を称えて、教育委員長名で表彰を行いました。



歯学部第27期 謝恩会に出席しました

教育委員長 佐藤裕二

3月19日にはおごそかな卒業式のあと、学生主催による謝恩会が帝国ホテルで開催されました。

「学生達だけが楽しむ祝賀会」もこれまでときどきありました。今回は、理事長・学長先生をはじめ、名誉教授の先生方にもご出席いただき、整然としたなかにも和気あいあいとした非常に良い祝賀会でした。良い祝賀会であったときには、国試合格率が高いという噂は本当かも知れません。

謝恩会後半では、恒例の「学生による先生ランキング」表彰がありました。それぞれのNo. 1は「わかりやすい授業」弘中先生、「優しい」佐藤昌史先生、「癒し系」佐藤昌史先生、「かっこいい」馬場先生、「おしゃれ」菅沼先生、「長生きしそう」宮崎先生、「ちよいちよい悪」新谷悟先生がつぎつぎと表彰され、教員達の羨望のまなざしを受けました。ちなみに私は6年生の学年主任でしたので、「お世話になったNo. 1」に選んでもらえました。

学生達が巣立ってゆくのは気持ちの良いものです。どうか、本当に心の温かい優秀な歯科医師になってくれることを心から願っています。



第17回米国嚥下障害学会に参加して

口腔リハビリテーション科 宇山理紗

平成21年3月4日から7日までの4日間、米国のルイジアナ州ニューオーリンズで、米国のほかカナダ、日本、ドイツ、イタリアなど世界11カ国から摂食・嚥下障害治療に携わる医療者288名が参加し第17回米国嚥下障害学会が開催されました。



ニューオーリンズは、2005年8月にハリケーンカトリーナの暴風雨により壊滅状態となりほぼ8割が水没したといわれていましたが、現在は復興しスペイン統治時代の町並みとジャズを奏でるバーが軒をつらね、活気を取り戻していました。学会場は、フレンチクォーターという場所で蒸気船が停泊するミシシッピー川からの運河を見下ろすホテルで行われました。カンファレンスでは、「嚥下の生理的機能および脳の活動」、「EBMに基づく嚥下訓練法」、「EBMに基づく嚥下検査法」などが熱心に討論されました。研究報告も数多

く行われ、今年の学会最高賞を受賞した報告はフロリダ大学のグループが行ったパーキンソン病患者への呼吸筋強化訓練(EMST)介入後の嚥下機能を評価したRCT(ランダム化比較試験)研究で、パーキンソン病患者への嚥下訓練の治療法として、EMSTの有効性が示されていました。

この学会に参加するたびに思うことは、どの発表にも白熱した意見交換が行われ、参加者の嚥下障害の診断や治療に対する熱心な姿勢をも伺い知ることができ、会期を通して非常に勉強になるということです。

平成20年度昭和大学歯学部ハイテク・リサーチ・センター研究成果発表会開催される

口腔生化学教室 高見正道

「ハイテク・リサーチ・センター研究成果発表会」は研究代表者である宮崎隆研究科長のもと、平成17年度から開催され、平成20年度で4回目を迎えました。今回も本プロジェクト「顎口腔機能障害の発症機序究明とその機能回復に関する先進的研究」に取り組んで得られた、極めて質の高い研究成果がポスター形式で発表され、活気ある議論が行われました。

特別講演1では、慶応義塾大学理工学部教授の中島真人先生をお招きし、「FG視覚センサを用いた摂食嚥下機能および呼吸評価システム」というタイトルで、就寝中の患者を視覚センサによって非接触的に観測し、得られたデータから呼吸が正常か異常かを判断する画期的な技術開発の経緯とその有用性について講演していただきました。現在、口腔衛生学教室の向井美恵教授とともに摂食嚥下評価への応用を試みられているそうです。

また、特別講演2では、口腔生理学教室の井上富雄教授が「咀嚼運動制御の神経機構」と題し、神経回路と咀嚼運動の関連について、新しい解析方法を利用して得られた最新の知見をわかりやすく紹介してくださいました。

この発表会を機に、各研究室が連携し新しい研究プロジェクトが萌芽し、昭和大学歯学部の研究レベルが一層向上することを期待しております。最後になりましたが、会の運営をご担当くださいました皆様に深く感謝申し上げます。



外国人研修生修了書授与式が開催されました

歯科薬理 山田庄司

平成20年度外国人研修生修了書授与式が平成21年3月17日(火)17:30から、入院棟17階のタワーレストランで行われました。1年間の研修を終え、めでたく修了書を授与される研修生は29名となりました。国際交流センター長の本間教授の挨拶に続き、細山田学長より一人ずつ修了書が手渡され、正装した研修生は喜びの中にも緊張のおもちで学長と握手を交わしていました。授与式終了後は学長の乾杯で懇親会に移行しました。ひとしきり歓談した後、研修生の一人一人が1年間の思い出や今後の抱負などを話しました。この1年間で仲良くなった研修生たちは出身国とは関係なく楽しく歓談し、あちらこちらで指導教員と共に写真撮影を行っていました。



海外からの研修生

口腔生理学 王丹

私は王丹と申します。中国人です。今口腔生理学の研修生です。去年の4月に日本にきました。その時桜が咲いて、とてもきれいでした。今年の桜もそろそろ咲きそうですが、私が中国に帰国するところです。



私は以前大学で医学と日本語を勉強しましたから、日本の生活とか文化とか人間とか知りたかったです。ですから本当に日本に来るのが嬉しかったです。この一年昭和大学でいっぱい勉強しました。実験は簡単ではないけど、もっと医学の基礎研究が好きになっていきました。よかったです。医学研究は有益です。その上、私はいっぱい旅行にいきました。浅草とか東京タワーなど、京都と奈良も行きました。以前の日本語の教科書で勉強した場所や、ドラマのロケ地に行くと、私もテレビに入ったみたいでした。でも一番大切なのは人間です。私が最初日本に来た時、何でも分からなくて、研究室の先生たちいろいろ手伝ってもら

いました。歯科基礎学会の時、実験の時、私が困った時、いつも手伝ってもらいました。暇な間私たちはいっしょに食事について、いっしょに昭和大学管弦楽団の演奏会を聞きに行きました。多すぎですから、全部書ききれません。ここで本当に口腔生理学の井上先生、鶴岡先生と研究室の皆さん、と医学部第一生理学の郭先生にいろいろお世話になりました、どうもありがとうございます。

いよいよ帰国です。私はこのすばらしい思い出を一生忘れないでしょう。

行事予定

広報委員長 井上富雄

- 4月3日(金): 歯学部2-4年生 進級式
歯学部5年生 白衣授与式
- 4月4日(土): 大学院入学式
- 4月12日(日): 入学式および入寮式
- 5月14日(木): 歯学部3・4年生 健康診断

昇任・採用

広報委員長 井上富雄

昇任: 美容歯科診療科教授 真鍋厚史

診療統計(平成20年2月分)

医事課長 久米徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16,845	732.4	721.1	729.8
入院患者	372	13.3	9.5	13.3

編集後記

歯科医学教育推進室 馬谷原光織

今年、気象庁発表の「さくらの開花予想」によると、東京での開花は3月25日になるようです。同時期を比較すると、40年間の間におよそ100km北上しており、気象庁はこの現象を、「地球温暖化」や「観測地点周辺の都市化」などが原因としています。「地球温暖化」という回答は誰しもが思いつく事ですが、もう一つの「観測地点周辺の都市化」という、足もとの事実を冷静に捉える観点に感銘をうけました。最後になりましたが、年度末のお忙しい時期に、快く執筆をお引き受けくださいました先生方に深く感謝いたします。

